

目標到達を目指した指導法の研究

志布志高校 SELHi 事業

1. 概要

志布志高校 SELHi 事業では、「ディベートができる力」を卒業時の到達目標と定めた。この目標を達成するためには4技能およびコミュニケーション方略をバランスよく継続的に向上しなければならない。そのため、授業内活動研究班では、シラバス班が定めた各科目の到達目標に対し、授業でどのような指導（トレーニング方法）を取り入れるのが効果的かという点に対して研究を行ってきた。最終年度である今年度は、ほぼ全員で取りかかっている。

その指導法を研究する手順は以下である。基本的にはPDCAサイクル、あるいはアクションリサーチ的と言っても良いかと思われる。

- ① 該当学年のどの科目のどの目標を達成するか決定する。
- ② その目標を達成するためのトレーニング方法を考え実践する。
- ③ 生徒にアンケートを行い、そのトレーニング方法について Feedback のヒントを得る。それをもとに活動を工夫する。

2. 各指導法の研究

それぞれの指導の概要は以下の通りである。尚、18年度に開始されたものに関しては、生徒のアンケート結果もつけてある。

指導法の名称	ねらい	簡単な説明
(1) Peanuts	内在化 (intake)	欠けているのは何？
(2) 置換モード	内在化 (intake)	英文中の日本語を英語にして音読だ！
(3) Read and Look up	内在化 (intake)	顔をあげて読む！
(4) Quick Writing	内在化 (intake)	30秒に何回その語句をかけるか競争
(5) Step Up Skit	内在化 (intake)	少しずつ会話練習がレベルアップ
(6) Word Hunt	内在化 (intake)	何度も読んで、単語を探せ！
(7) Punch game	文法	体で覚える英文法
(8) ぼち Dictation	文法, Listening, Writing	テープが止まったらその直前を書く！
(9) Definition game	文法, Oral	自分の言葉で説明だ！
(10) 600選 百人一首	文法, Oral	上の句と下の句。
(11) Timed Writing	Writing	10分間でどこまで書けるか。
(12) Slasher	内在化 (intake)	スラッシュを使って訓練。
(13) Rearrange the order	内在化 (intake)	和訳がバラバラ。
(14) Quick Reading	内在化 (intake)	ストップウォッチ片手に音読。どこまで速く読めるか。
(15) 英作文はじめの一步	Writing	文の作り方を学ぶ第一歩。
(16) Note-taking	Listening, Writing	Note-taking ゲット！
(17) Reproduction Quiz	Oral	相手の意見を自分のことばで説明しよう。
(18) Composition related with Debate	文法, Writing	Constructive Speech の下地作り。
(19) なりきりロールプレイ	Listening, Oral	意見交換スピードアップ
(20) ホットポテト	Debate Training	とっさの一言

(21) モデルディベートの再生	Debate Training	相手の意見などを自分のことばで説明。さらに瞬時に反応できるかな。
(22) サイレントディベート	Debate Training	意見を組み立てよう。
(23) ピンポンディベート	Debate Training	大きな声で。他者の意見も利用する。
(24) マイクロディベート	Debate Training	論理性を身につけよう。
(25) サーキットスピーチ	Debate Training	相手の意見を再生できるかな。

次ページ以降、それぞれの活動の到達目標、実施手順、変遷、結果・考察等を述べる。

3. まとめ

本研究では、アクションリサーチ的に、うまくいく方法をさらに改良したり、あまりうまくいかない方法を捨てたりした。来年度はさらに、様々な目標に向かって、同じような手法を用いて指導法を考えていきたい。

(1) Peanuts

目標	文法力, 語彙力をつける。		
実施科目	OC I, 英語 I, 総合英語 A, 英語 II	所要時間	10分
実施手順	<p>1. 準備</p> <p>① 次ページのように内容理解の上でも重要な2語～7語程度のフレーズを1パートにつき10カ所前後選ぶ。</p> <p>② 選んだフレーズについて, (a)所々文字の欠けたもの, (b)和訳したもの, (c)完全なものそれぞれの一覧を載せた1枚のワークシートを作成する。</p> <p>2. 実施手順</p> <p>① ワークシートの(c)の一覧を見ながら教師の後について3回ずつ音読練習をする。*意味の理解が不完全な生徒は和訳に目を移しながら確認できる。</p> <p>② 起立してワークシートを見ながら決められた制限時間内で, 4回, 四方読み(※注釈)する。</p> <p>③ ワークシートを半分に折り, (a)と(b)を見ながらコーラスリーディングをする。</p>		
変遷	<p>1. 上記実施手順に以下④～⑥を付け加えた。</p> <p>④ ペアを作り, じゃんけんをする。</p> <p>⑤ じゃんけんに負けた方は, ワークシートをさらに半分に折り, (a)のみを見る。勝った方は(b)を見ながら教師の指定した数のフレーズを選び, 日本語を言い, パートナーに答えさせる。パートナーがうまく答えられないときは, 最初の1語を与えるなどヒントをあげる。終わったら役割を交代して同じ活動を繰り返す。</p> <p>⑥ 教師が日本語を言い, 生徒はワークシートを見ずにコーラスで答える。</p> <p>2. 反復音読を英語学習の基本と捉えてこのトレーニングを取り入れた。</p> <p>3. 生徒がPeanutsに意欲的に取り組むように, 取り上げるフレーズは予習プリントや小テストとの関連性をできるだけ持たせるようにした。</p> <p>4. 使用している教科書を離れても, 運用できるように汎用性の高いものを選ぶようにした。</p>		
結果・考察	<p>1. 音読を習慣づけることによって, 声を出して読むことへの抵抗感がなくなり, 積極性が見えてきた。</p> <p>2. ペア活動等が授業への参加を意欲的にしてきている。また, 予習への取り組みがよくなっている。</p> <p>3. 受容語彙力増加につながり, 運用のための基礎力養成に大きな効果を上げるかは, 客観的な試験もしてみないと結論づけられない。しかし, このトレーニングを楽しんで生徒はやっているのだから, そのことが目標につながるようにいろいろなバリエーションを工夫してみたい。</p>		

※「四方読み」とは, 生徒を立たせ, まず教壇に体を向けて音読をさせ, その後読み終わった者から順に, 右, 後方, 左へと体の向きを方向転換して音読をさせる方法である。教師は何回目の音読か把握することができ, また生徒も, 自分と他の生徒との音読スピードを比較することができる。

【ワークシート例】

Peanuts

T__ed a__er w__king a__ day	一日働いたあとで疲れて
p__p__es f__ t__o__ow.	次の日の準備をする
r__y__ t__m f__ s__v__al	生き残るために彼らに頼る
S__ was s__p__d to __ in g__e t__ee	彼女は3年生になると推測されていた

Tired after working all day
prepares for tomorrow.
rely on them for survival
She was supposed to be in grade three

解答を下につけて折らせ, ただ答えだけを見て読むことはないようにする。終わった生徒は, 回答の武部分を隠して, その右に書いてみる練習をする。

(2) 置換モード

目標	語彙力, 文法力をつける。		
実施科目	英語 I A, 総合英語 A, 英語理解	所要時間	15分～20分
実施手順	<p>1. 準備</p> <p>① 教科書の本文の中から, 内容理解の上でも, 語彙力強化の上でも重要な単語を含む2語～7語程度のフレーズを10数カ所選び出す。(動詞を含むフレーズをなるべく多く選ぶ。)</p> <p>② ①で選び出したフレーズを日本語に直し番号を振り, それ以外の部分は英語のまま打ち込んだワークシートを作成する。(別紙ワークシートを参照)</p> <hr/> <p>2. 実施手順</p> <p>① ワークシートを見ながら, 本文をCDで聞く。</p> <p>② ワークシートを見ながらCDの後について1文ずつ音読練習をする。(回数は状況, 生徒の理解度次第) *日本語で書かれた部分も読まれた英語の通りに読む。</p> <p>③ 起立しワークシートを見ながら, 決められた制限時間内で, 4回音読する(四方読み)。</p> <p>*日本語で書かれた部分も頭の中で英語に直して読む。音読の際は, 生徒が, 恥ずかしがらずに大きな声で読めるように音楽をBGMとして流しておく。(音楽が始まったら, 活動開始, 音楽が止んだら活動をやめるということを習慣化させておく)</p> <p>④ ペアを作り, じゃんけんをする。</p> <p>⑤ じゃんけんに負けた方は, ワークシートを見て, パートナーに聞こえるように大きな声で音読する。勝った方は, パートナーの音読を聞いて, パートナーが, 日本語の部分をもっと英語に直せない場合は, 最初の1文字, あるいは最初の1語をヒントとして教えて手助けをする。終わったら役割を交代して同じ活動を繰り返す。(*生徒に意欲を出させるために各列ごとに競争をさせて, その列で一番速く読めたペアにポイントカードを与えるなどしている)</p> <p>⑥ ①～⑤の手順で数回の授業で音読練習をして, 生徒がほぼ読めるようになったら, 綴りが書けるかどうかをチェックする。</p> <p>具体的にはワークシートの裏側の余白を使って, 教師がランダムに読みあげる日本語のフレーズを全て英語に直してその余白に書き込む。何個書けたか競争をして, より多く英語で書けた生徒にはポイントカードを与える。</p>		
変遷	<p>1. 生徒が置換モードに取り組みやすくするために, 使用するフレーズは, 事前にPeanutsでもよく練習させるようにした。このことによりそのフレーズの音読量が増えた。</p> <p>2. 該当のフレーズを音声としてアウトプットするだけでは, 正しい綴りで書く力が身に付かなかったので, 音読練習の後は, Quick Writingなどのゲーム感覚の競争を取り入れて書かせるようにした。</p> <p>3. Read and Look Upの手法を取り入れ, 本文全体を生徒の記憶に残すようにした。</p>		
結果 ・ 考察	<p>1. 特に1年生は, 本校に入学したことで, 初めて置換モードを経験したが, 週番日誌や「生活の記録」などにも「英語の授業で取り組んだ置換モードやピーナッツが楽しかった」とコメントしていた。</p> <p>2. ペア活動や起立して行う活動が多いので生徒は退屈せずに取り組んでいる。</p> <p>3. 何度も音読しているので, 生徒にWord Huntなどで語句について発問すると, すぐに反応が返ってくる。</p> <p>4. 綴りを書く力はまだまだ不足しているので, 書かせる活動ももっと必要である。</p>		

【 資料 】

置換モード

There was (① 日本人科学者：3 語) (②スペースシャトルに乗っている：4 語) . His name was Mohri Mamoru. He (③宇宙からたくさんの写真を撮った：7 語) and (④それらを多くの国々に送った：5 語). He sent a message from space. "I see a lot of beautiful forests and rivers from here. We must (⑤この美しい地球を守る：4 語)and (⑥我々の子供たちにそれを残す：5 語) ."

Mr. Mohri and the students in Toyama (⑦環境について考えた：4 語)(⑧地球的規模の観点から：6 語).

This is very important. (⑨結局：2 語) , we are not people of one country, but (⑩世界に属する人：4 語)

(3) Read and Look up

目標	Intake(取り入れられた Input)を増やす。		
実施科目	ほぼ全ての科目	所要時間	10分
実施手順	① まず初めに、本文の英文を見ながらリスニングさせる。 (ここでリスニングの際、後で読みやすい様に、文と文の間にスラッシュを入れさせる。) ② 1文ずつテープもしくは、教師の後に続けて読ませる。 ③ 生徒を全員立たせて、音読練習をさせる。 ④ テキストを見て1文ずつ暗記し、その後、テキストを後ろ手に持ち、テキストは見ずに音読する。全文を音読し終わった者から順に席に着く。 ※ 教科書を後ろ手に持たせることで、教師は誰が頻繁に見ているかを把握しやすい。		
変遷	集中力を増す為に、ストップウォッチで時間制限を設けることにした。		
結果・考察	1. 単なる音読活動に比べ、一度、英文を暗記してから Look up して音読することで、より英文の定着が図れているように感じる。 2. 時間を計ることにより、1回目よりは2回目、2回目よりは3回目というように本文をより速く読む力もついてきた。 3. 立たせたり座らせたりする活動を多く持つことにより、座学のみでの授業に比べ、生徒の積極的な授業参加が見られるようになった。		

(4) Quick Writing

目標	語彙を増やす。		
実施科目	ほぼ全ての科目	所要時間	5分
実施手順	1. 準備：ストップウォッチ、解答用紙。 2. 実施手順 ① 重要単語の意味を確認し、黒板にスペルを板書し理解させ、何度も発声練習。 ② 単語の文字数を考慮し、20～30秒の制限時間を設け、その時間内にその単語をできるだけたくさん書かせる。 ③ 制限時間が過ぎたら、隣の生徒の答案を採点させ、何語書けたか数え本人に返却する。 ④ 数が少ない者から順に挙手をさせ、一番多くできた生徒にポイントカードを与える。		
変遷	教師も一緒に参加するようになった。		
結果・考察	1. 生徒は生き生きと活動に参加している。少しでも他の生徒より多く書こうと必死であった。当初、常に同じ生徒がたくさん書けるのではないかと危惧していたがそうでもなく、単語により書き易さがそれぞれ違うのか、毎回一番多く書ける生徒が違い、大変盛りあがった。 2. 今後、生徒が飽きないよう、ペアやグループで合計数を競わす等の工夫と改善も必要であると思われる。		

(5) Step Up Skit

目標	日常会話で使われる表現を覚える。		
実施科目	OC I	所要時間	10分～20分
実施手順	<p>1. 準備</p> <p>① 教科書の本文スクリプトに用いられている言語材料の中から、リスニングをする上で、内容理解の面で重要なもの、かつ表現力強化の面でも重要なものを選び、それらの表現を使ってオリジナルのスキットを作成する。</p> <p>② ①で作成したスキットをレベル1とし、一部の単語や熟語などを空欄にしたものをレベル2として別に作成する。また文単位で一部の文を空欄にしたものをレベル3として別に作成する。(一枚のワークシートの中に3つのレベルが並んでいる。ワークシートを折り曲げることで1つのレベルだけを見ることが出来るようにする)</p> <p>2. 実施手順</p> <p>① 教科書本文のリスニングをする前に、用意したスキットのワークシートを配布する。</p> <p>② レベル1の語句、内容などを説明し、教師の後について読ませる。</p> <p>③ ペアを作り、起立して2人でスキットを練習する。1回通ったら、役割を交代して再度練習する。</p> <p>④ レベル1を Read and Look Up を用いて、数回ずつペアで練習する。</p> <p>⑤ レベル1の表現が生徒の記憶に残った頃合いを見て、レベル2、レベル3に同じように挑戦していく。(生徒の出来具合や、その日の授業の進度や時間設定によってレベル2まで実施するか、レベル3まで実施するか臨機応変に決める。)</p> <p>⑥ 重要表現が音声として、生徒の頭にインプットできたら、本文をCDでリスニングさせて内容把握をさせる。</p> <p>⑦ 生徒がうまく聞き取れなかった箇所を再度スキットを使って音読練習させる。</p>		
変遷	<p>1. 最初に教科書のスクリプトを聞かせると、生徒が聞き取れない箇所が多いが、そのスクリプト中の重要表現を用いたスキットを何度も音読練習させた後に、再度リスニングをさせると、先程は全く聞き取れなかった英文が聞き取れるようになったという実感を生徒が持つようになった。</p> <p>2. ペア同士で競争させて、速く終わったペアにはポイントカードを与えるようにした。しかしスピードだけでは、評価の観点としてふさわしくないと考えるので、どういう基準でポイントカードを与えるか再考の必要あり。</p>		
結果・考察	<p>1. 何度も音読をすることで、練習した語句は聞き取れるという実感が生徒に出てきたようだ。</p> <p>2. 生徒同士に競争をさせることでテンポよく活動が進行している。</p> <p>3. 音読とリスニングが中心なので、語彙を書く力の定着に課題が残っている。</p>		

【ワークシート例】

Planet Blue Unit 1 Topic B At the Passport Control
Skit Practice (Step Up Skit)

Level 1	Level 2	Level 3
A: How long will you stay in Japan? B: For two years.	A: () () will you stay in Japan? 日本にはどれくらい滞在するの? B: () two (). = 2年間よ。	A: () in Japan? 日本にはどれくらい滞在するの? B: (). = 2年間よ。
A: What is the purpose of your visit? B: For getting a job.	A: What is () () of your visit? = 目的は? B: For () a job. = 仕事を探しに	A: ()? = 訪問の目的は? B: For (). = 仕事を探しに
A: Is this your first visit? B: Yes.	A: Is this your () ()? = 日本初めて? B: Yes. = ええ。	A: ()? = 日本初めて? B: Yes.

(6) Word Hunt

目標	語彙力をつける。		
実施科目	英語 I A, 総合英語 A, 英語理解	所要時間	10分程度
実施手順	<p>主なねらいは、次の2つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語と英語の結びつきを強化する。 2. 素早く英文から必要な情報（この場合は単語）をさがす訓練をする。 <p>【実施手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あらかじめ<u>内容理解に必要な語</u>（難しい語や long word ではない）を、1セクションにつき5・6語ぐらいチェックしておく。 2. 生徒を全員立たして、日本語を言う。（可能ならば音楽を流す）。 3. 和訳先渡しの場合・・・生徒は和訳を参照しながらさがす。 それ以外の場合には、生徒は自分の力でその単語をさがす。 4. 単語を見つけた生徒は下線を引き、座る。座った生徒の数を<u>適当に</u>数えながら言う。 5. 3分の2ぐらいが座ったところで生徒に“Stop”というか、音楽を止める。 6. 全員座らせて、隣の生徒と答えをチェック。 7. 全部終わったところで、Quick Writing に移る。 		
変遷	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高知西のバージョンでは見つけた生徒は手を挙げていたが、座らせる方がおもしろい。みんなが座ると焦るようだ。ただし、1個ごとにたたせたり、座らせたりするのは面倒だし、時間ももったいないので、「2番と5番！」などと2語ずつ探させた。生徒の中には、「なぜ立ったり座ったりしないと行けないのか分からない」と述べた生徒もいた。 2. 日本語をいうのではなく、語の定義をのべて探させる方法もある。それは Word Hunt ver.2 とした（ただし、この場合は主に中学生レベルの語を探させる）。 		
結果 ・ 考察	生徒達は、この作業を「楽しい」と感じている生徒が多かった。毎学期末にとる授業アンケートでは、「単語をさがすのは楽しいのもっとやって欲しい」と感想を書いている生徒が何人も見られた。		

※2年生の感想については、22～23ページを参照。

Handout 例

Find the words which have the following Japanese meaning. The number in a blanket shows the number of words (no blanket: a single word.)

① 開発した ② 快適だ ③ 裁縫 ④ 使える ⑤ いつものように(2) ⑥ 受け入れられた(2)

One American business developed a special pair of scissors for elderly people with arthritis. The scissors had soft hand grips, so that they could be used with little pain.

Soon the scissors became popular among young people, left-handed people, and people with a variety of hand sizes. Everyone found that the soft hand grips were very comfortable to use.

Thanks to these scissors, elderly people who had given up sewing could return to their favorite hobby. Children found these scissors much more usable than those usually sold for children. Businesses found that their workers did not get as tired as usual.

The scissors with soft hand grips were, at first, made for elderly users, but they were soon accepted by all users. As a result, these scissors are a successful example of a universally designed product.

(7) Punch game

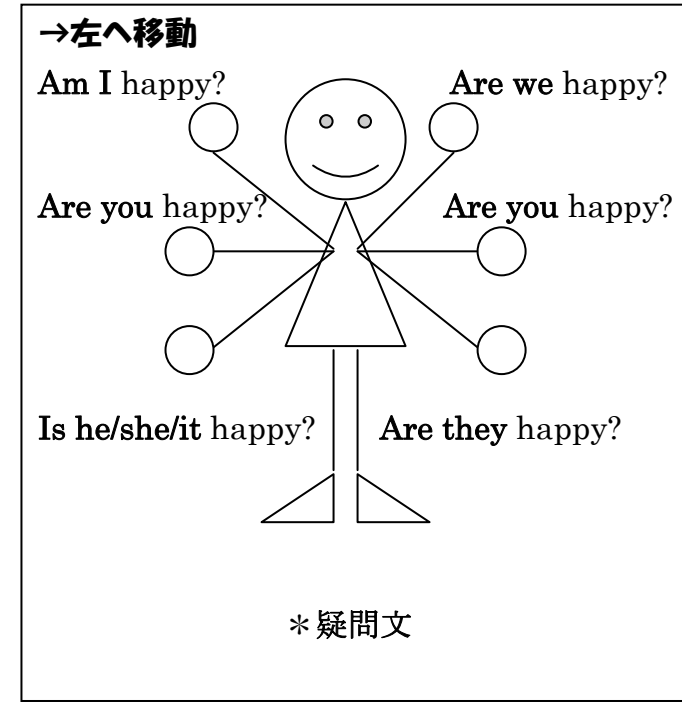
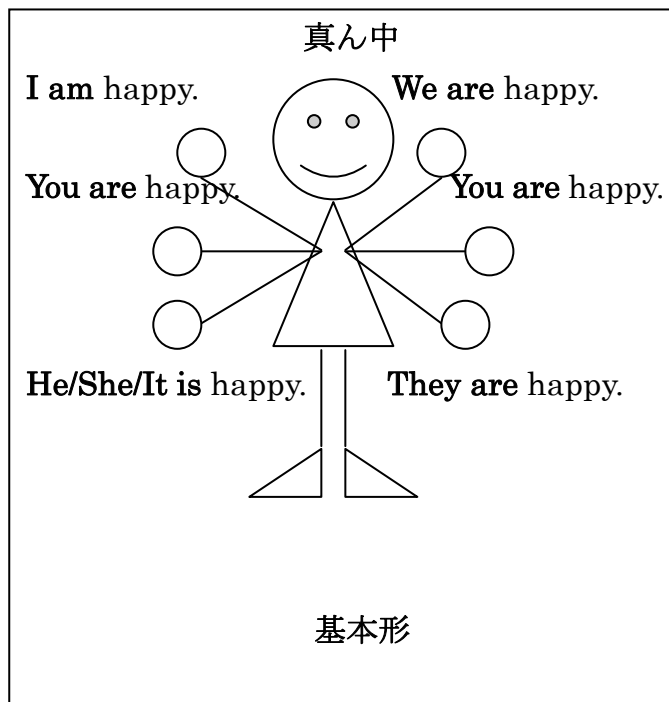
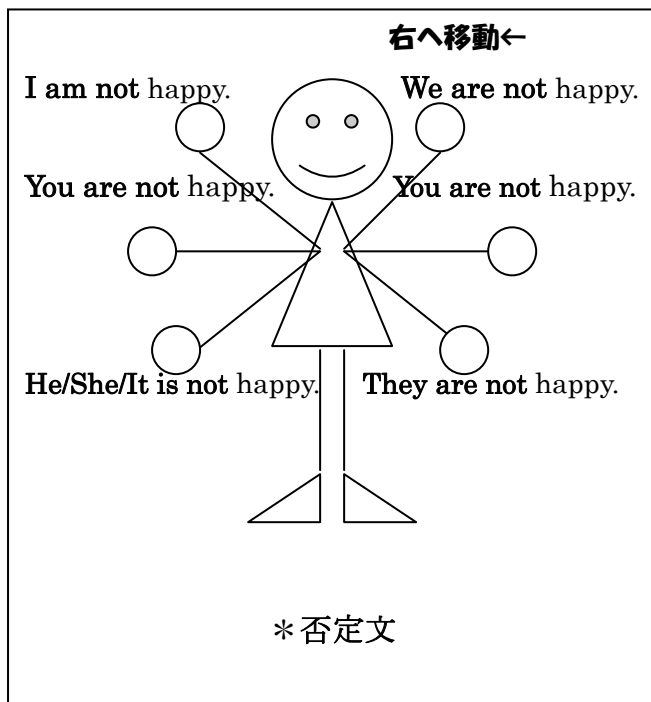
目標	文法力をつける。		
実施科目	総合英語 B, 英語 IB, 異文化理解	所要時間	10分
実施手順	<p>1. 準備 黒板にパンチゲームの図を書いておく。(別紙ワークシートを参照)</p> <p>2. 実施手順</p> <p>① パンチゲームの説明をする。実際に教師が動作をしてみせる。(別紙ワークシートを参照) 例) be 動詞編 : 右腕を上方向に45度上げると I am。真横に伸ばせば You are。下方向に45度下げると He is / She is / It is を言う。左腕では, 2人・2つ以上の場合を言う。左上方向45度上げると We are。真横に伸ばせば You are。下方向45度に下げると They are。これを基本形とする。</p> <p>② 最初に基本形を行い, 次に右に一步移動して, 基本形を否定文に, 左へ移動して疑問文に変えて行く。</p> <p>③ ペアを組ませ, パンチの動作を行う生徒 A と, そのパンチされた方向の文を述べる生徒 B を決める。</p>		
変遷	<p>・3段階の速さを決め, その速さで生徒が言えるようになることを目標にし, パンチゲームを行った。その際, 電子メトロノームを使用し, 次のレベルに合わせて, 生徒に音を聞かせている。</p> <p>Level 1 40回/60秒 Level 2 50回/60秒 Level 3 60回/60秒</p>		
結果 ・ 考察	<p>1. 生徒は最初, どの腕でどの方向にあげたら何と言うのか困惑していたが, 何度も繰り返すうちに慣れ, すばやく答えることができるようになっていた。</p> <p>2. 生徒は特に, 主語が He/She/ It になると少し行き詰まってしまうが, ペア活動で行うことによってお互いに注意しあいながら次第に正しく答えることができるようになっていた。</p> <p>3. 段階の速さを設定することで, 生徒は Level 1 をクリアしたら, 次は Level 2 の速さで言えるようになるうと目標達成に向け頑張っていた。</p> <p>4. 授業中に体を動かしながら活動することで, いつもの授業と少し違い楽しんでいる生徒が多かった。</p>		

(8) ぼち Dictation

目標	文法力, Listening 力, Writing 力をつける。		
実施科目	英語 I A, 総合英語 A, OC I, 異文化理解, 英語理解	所要時間	5~10分
実施手順	<p>1. 準備: ターゲットにする単語, 解答用紙</p> <p>2. 実施手順</p> <p>① 音声 CD 等を流し, あらかじめ決めた箇所に来たら CD を止め, その直前の単語, またはセンテンスをディクテーションさせる。</p> <p>② 200 語程度の英文から 5~10 題出題し, 解答し終わったら隣の生徒の答案を採点させる。</p> <p>③ 正答数が少ない順に挙手をさせ, 一番正解が多かった生徒にポイントカードを渡す。</p>		
変遷	<p>1. 復習として, 教科書の本文から既習重要語をターゲットにしディクテーションをさせた。</p> <p>2. また接続詞や形容詞, 副詞などもディクテーションさせた。</p>		
結果 ・ 考察	<p>1. 英語 I, OC で実施したが, 実施する機会が充分とれなかった。</p> <p>2. CD を止めるタイミングが難しく, 教師の事前練習が必要である。</p> <p>3. 既習内容に限らず, 今後, 未習教材でも簡単な単語に限定し, 取り入れてみたい。</p>		

Punch Game

例： be 動詞 (I am happy.を用いた場合) の動作例



* 一般動詞や時制の文法定着にも応用できる。

* 時制においては、真ん中を現在形、右へ移動して未来形、左へ移動して過去形などに変化させることができる。

(9) Definition game

目標	単語を自分の英語を用いて説明することができる。		
実施科目	ほぼ全ての科目	所要時間	10分
実施手順	<p>1. ペアを組ませ、単語を説明する生徒Aと単語を推測する生徒Bを決める。</p> <p>2. 日本人教師が黒板に英単語を書く。生徒Bは、黒板を見ない。</p> <p>3. 黒板を見て、生徒Aは生徒Bに説明する。生徒Bが正解するまで説明を続ける。</p> <p>4. 生徒Bが正解したら終了とする。</p> <p>5. 時間が来たら (30秒程度)、何人かの生徒に各自の定義を発表させる。</p> <p>6. 1～4を役を交代して4回繰り返す。</p> <p>7. 日本人教師が、あらかじめ作っておいた説明のモデルとなるプリントを配布する。</p> <p>【指導の流れ】</p> <p>① ジャンル→詳細などと流れるように指導した。また具体例などをいれるように指導した。</p> <p>(例)・ It's a fruit. It's yellow. Monkeys love this.</p> <p>・ It's a sport. You use a small ball and a pat. One of the famous players is Miyazato Ai.</p> <p>この中で主に指導したのは、以下の点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ、文を使うこと ・ 主語はWeではなく、Youを使うこと ・ 具体例を入れ込むときは、For exampleをつかうこと ・ 色を言うときには、The color is ～.とは言わずに It's ～.と述べる方が普遍的であること。 ・ this/it など代名詞を使うようにも工夫した。 <p>② 上記の①のあと、関係代名詞を用いるようにも説明した。</p> <p>(例)・ It's a person who teaches.</p> <p>・ It's a place where there are doctors, nurses and patients.</p>		
変遷	<p>① 単語を説明しにくいと感じるものを入れるようにした(apple → light など)。これは when や if を使わせることを意識したため。Light なら、when it is dark などが出てくる。複文を使えるようにするのに良いトレーニングになる。</p> <p>② 単語を名詞から形容詞や動詞などにも広げる。形容詞の場合には、The opposite word is ～や The similar word is ～. などという表現を教えると良い。</p> <p>③ まだジャンルを言ってすぐに Guess する生徒がいるので、3回説明するまでは、分かっていても生徒Bはすぐに言わないようにした。</p>		
結果考察	<p>1. 生徒は最初全く説明できない状況から、なんとかできる状況へと変化した。</p> <p>2. 生徒は関係代名詞の機能を実感し「関係代名詞はホントに便利です」と感想を述べていた。</p> <p>3. この活動で「文の形式で話す」「言いたいことをいえないとき、他のことばで言い換える」「関係代名詞を用いて話す」など、さまざまなコミュニケーション方略や言語機能が学べることが分かった。</p>		

(10) 600選 百人一首

目標	文法力をつける。		
実施科目	ほぼ全ての科目	所要時間	30～40分
実施手順	<p>1. 準備 600選の中で文法的に次に何が来るか分かるもの（例えば looking forward to などなら次に動名詞が来る）や、コンマで文が分かれているものを選び、上の句と下の句に分けて、カードを作る（下図参照）。大きさとしては、文字が 36pt ほどあった方が見やすいので、最も長い文にあわせて、カードの大きさを調整する。上の句の方には、下の句も書いておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;"> <p><u>I am looking forward to</u> (seeing you for the first time in ten years.)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 50%;"> <p>seeing you for the first time in ten years. (10)</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>下の句も書いておく</p> </div> <div style="margin-top: 10px; text-align: right;"> <p>下の句の語数。</p> </div> </div> <p>最低でも二十個は作成し、それを1組にする。クラスで行う場合は、5人1組がちょうど良いと思われるので、$40 \div 5 = 8$組程度用意する。また、それぞれのカードには点数を記入しておく。点数は下の句の語数とすると面白い。</p> <p>2. 実施手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラスで、予め20個（あるいはそれ以上）の使用する英文の小テストを実施しておく（そうしないとゲームになりにくい） ② 教員がそれとなく白熱するようにチーム分けをする。 ③ チームでじゃんけんして、親を決める。親は上の句を読むと同時に、点数を記入する。 ④ 適時、教員が「ボーナスタイム！」と宣言して、点数が2倍になる時間を設ける。 ⑤ 生徒が全部カードを見つけたら終わり。 ⑥ チームを変えて、もう一回。3回程度すると覚える率も高まると予想される。 		
変遷	現在実施予定の活動のため、まだ不明。		
結果・考察	上に同じ。		

【資料】

上の句・下の句（例）

You had better not take too much medicine	which will do you more harm than good.
Needless to say, you shouldn't depend on	other people for your success.
Had it not been for your help	we could not have carried out the plan.
Even if the sun were to rise in the west	I would not change my mind.
He had been ill in bed for a week	when he was sent to the hospital.
I am looking forward to	seeing you for the first time in ten years.
He is one of the greatest scientists	that Japan has ever produced.
Don't be afraid of	making mistakes when you are speaking English.
Don't you think it foolish	to stay indoors on such a lovely day?
He was laughed at	by his friends when he made a foolish mistake.
Ask your teacher, and he'll tell you	what book you should read.

(11) Timed Writing

目標	英語で自分の意見を書くことができる。														
実施科目	ほぼ全ての科目	所要時間	10～15分												
実施手順	<p>1. 準備 ディベートに適するトピックを用意し、賛成か反対かいずれかの立場に立った内容の英文を書く。</p> <p>2. 実施手順</p> <p>① テーマを見た後、10分間で自分の立場が賛成か反対か明確にし、辞書を使わずに自分の意見を書く。</p> <p>② 教員が生徒の書いた英文の間違った箇所をチェックする。</p> <p>③ 次の時間に10分間で教師がチェックした箇所の訂正をする。この際、辞書を使ってもよい。</p> <p>④ 英文をクラスメートと共有し、コメントを書かせる。</p> <p>⑤ 回収した英文を教師で訂正し、返却する。</p> <p>⑥ 自分の書いたものを暗証させる。</p>														
変遷	<p>3学年では2年次から実施している。トピックは、自分の好きな場所や学校などについて述べるものから、自分の立場を明確にし、賛成・反対を述べるものに変更し、制限時間も15分から10分に減少したにもかかわらず、生徒の書く量は平均的に増えている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2年次</th> <th>3年次</th> <th>増加語数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均</td> <td>2.38</td> <td>4.68</td> <td>2.30</td> </tr> <tr> <td>最も増えた生徒</td> <td>2.80</td> <td>7.50</td> <td>4.70</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(WPM)</p>				2年次	3年次	増加語数	平均	2.38	4.68	2.30	最も増えた生徒	2.80	7.50	4.70
	2年次	3年次	増加語数												
平均	2.38	4.68	2.30												
最も増えた生徒	2.80	7.50	4.70												
結果・考察	<p>トピックによって、書きやすさの差はあるが、書く量が減った生徒は全体の5%に満たない。また上の表が示す値は2年次から3年次にかけてT検定で統計的有意差を見せた。全体的に伸びていると言える。</p> <p>また、生徒から「書くのが楽しい。」「英語で考えるのが楽しい。」という声も聞くこともある。しかし、文法的な間違いの減少には大きな変化は見られないため、コメント・ヒントの与え方に関して、更に改善の必要がある。</p>														

【Timed Writing テーマ一覧】

- | | |
|---|--|
| 1 Summer is better than winter. | 12 School uniforms should not be required. |
| 2 Animals in a zoo are happy. | 13 Study Abroad should be required for high school students. |
| 3 Cats are better pets than dogs. | 14 English should not be compulsory for all students. |
| 4 People should be required to do some volunteer work. | 15 Arranged Marriage should still be practiced. |
| 5 Mothers with new babies should not work. | 16 Animals should have more rights. |
| 6 High school students should not have boyfriends or girlfriends. | 17 Military service should be compulsory. |
| 7 High school students are too young to ride a motorbike to school. | 18 People should have to take a test before voting. |
| 8 Kagoshima should have more trains. | 19 Sports players should make less money. |
| 9 Homework should not be required. | 20 Chopsticks should be banned. |
| 10 Female students should be allowed to wear make up. | 21 High calorie foods should have a warning label like cigarettes. |
| 11 Boys and girls should be allowed in the same clubs. | 22 Little children should not drink soda beverages. |
| | 23 Rice is better than bread. |
| | 24 Girls look better with long hair. |
| | 25 Boys look better with long hair. |

- 26 Email should be official form of communication.
- 27 Students should not have to clean the school.
- 28 Students should not go to school on the weekend.
- 29 Internet Censorship is a good thing.
- 30 People should only bathe every other day.
- 31 School should provide breakfast for students if they have to come before 8:00am.
- 32 Space research should be given more money.
- 33 Music and Art are as important to learn in school as Math and Science.
- 34 People with illness should have more time off work or school to recover.
- 35 Sign language should be universal language.
- 36 People with tattoos should be allowed in the onsen.
- 37 All restaurants should be non-smoking.
- 38 People should eat more fruits and vegetables.
- 39 Zoos are unethical.
- 40 University graduates should get paid more money than people who don't go to college.
- 41 Beef should not be bought from the United States because of mad cow disease.
- 42 It is better for students to have a computer than not have a computer.
- 43 Love hotels should be shut down.
- 44 Beer and Tobacco should not be sold in vending machines.
- 45 Dictionaries should be updated every year and include slang words.

[TOEFL ライティング出題例]

- 46 A person should never make an important decision alone.
- 47 A person's childhood years (the time from birth to twelve years of age) are the most important years of a person's life.
- 48 A zoo has no useful purpose.
- 49 Advertising can tell you a lot about a country.
- 50 All students should be required to study art and music in secondary school.
- 51 Attending a live performance (for example, a play, concert, or sporting event) is more enjoyable than watching the same event on television.
- 52 Boys and girls should attend separate schools.
- 53 Businesses should do anything they can to make a profit.
- 54 Children should be required to help with household tasks as soon as they are able to do so.
- 55 Children should begin learning a foreign language as soon as they start school.
- 56 Classmates are a more important influence than parents on a child's success in school.
- 57 Dancing plays an important role in a culture.
- 58 Face-to-face communication is better than other types of communication, such as letters, email, or telephone calls.
- 59 Games are as important for adults as they are for children.
- 60 Grades (marks) encourage students to learn.
- 61 High schools should allow students to study the courses that students want to study.
- 62 It is better to be a member of a group than to be the leader of a group.
- 63 It is more important for students to study history and literature than it is for them to study science and mathematics.
- 64 Modern technology is creating a single world culture.
- 65 Most experiences in our lives that seemed difficult at the time become valuable lessons for the future.
- 66 One should never judge a person by external appearances.
- 67 Only people who earn a lot of money are successful.
- 68 Parents are the best teachers.
- 69 Parents or other adult relatives should make important decisions for their older (15 to 18 year-old) teenage children.
- 70 People are never satisfied with what they have; they always want something more or something different.
- 71 People should read only those books that are about real events, real people, and established facts.
- 72 People should sometimes do things that they do not enjoy doing.
- 73 Playing a game is fun only when you win.
- 74 Playing games teaches us about life.
- 75 Reading fiction (such as novels and short stories) is more enjoyable than watching movies.
- 76 Teachers should be paid according to how much their students learn.
- 77 Technology has made the world a better place to live.
- 78 Telephones and email have made communication between people less personal.
- 79 Television has destroyed communication among friends and family.
- 80 Television, newspapers, magazines, and other media pay too much attention to the personal lives of famous people such as public figures and celebrities.
- 81 The most important aspect of a job is the money a person earns.
- 82 There is nothing that young people can teach older people.
- 83 Universities should give the same amount of money to their students' sports activities as they give to their university libraries.
- 84 Watching television is bad for children.
- 85 With the help of technology, students nowadays can learn more information and learn it more quickly.

(12) Slasher

目標	Reading 力をつける。
実施科目	英語 I A, 総合英語 A, 英語理解
実施手順	1. 準備 ① 英文を意味のまとまりごとにスラッシュを入れ、その下に日本語訳を付けておく。 ② 重要な箇所や指示語はあらかじめ空欄にしておく。(別紙ワークシートを参照) 2. 実施手順 ① 生徒に上記で準備したプリントを配る。 ② 主語や述部には印を付けさせながら、一文一文をフレーズごとに前から意味をとっていく。 ③ あらかじめ空欄にしてある重要な箇所や指示語は、その都度生徒に問いながら読み進める。 ④ 内容把握をした後、プリントを見ながらフレーズごとに教師の後をつけて読ませ、読みの練習をさせる。
変遷	最初はスラッシュと、日本語訳のみを載せたプリントを使っていたが、生徒の本文理解を更に深めるために、重要な箇所の日本語は空欄にしたり、主語や述部に印を付けさせり、指示語について問うなどの改良をした。
結果 ・ 考察	1. 英文をフレーズごとに区切って意味をとっていくため、英文が読みやすくなったという生徒が多くなってきている。 5. 今後、Slasher の活動を更に発展させ、Shadowing 活動などにつなげていきたい。

[ワークシート例]

Lesson 6 Queen of Subtitle Translation Part 1

Underline the subjects and circle the verbs in each sentence.

You like movies, / don't you?

あなたは映画が好き でしょう？

Japan is one of the largest markets / for movies / in the world.

日本は大きな()の一つです 映画にとって 世界で

It imports / many movies / from abroad, / mainly from the English-speaking countries.

日本は輸入している たくさんの映画を 外国から 主に英語を話す国々から

When you go to see an American movie, / you see / Japanese words / on the screen.

アメリカ映画を見に行くと、 みなさんは目にします 日本語を スクリーン上に

These subtitles / are translated / from English.

これらの()は 翻訳されます 英語から

(13) Re-arrange the order

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文の読解 ・ 単語の理解 		
実施科目	英語 I, 英語 II, 英語理解, Reading	所要時間	10分
実施手順	<p>1. 実施手順</p> <p>① まず初めに1セクションごとの和訳を用意する。</p> <p>② 和訳を並べ換え, 順番をつける。</p> <p>③ 生徒は, 教科書を見ながらバラバラになっている和訳を英文通りの正しい順番に並べ換える。</p>		
変遷	<p>集中力を増す為に, ストップウォッチで時間制限を設ける。</p>		
結果考察	<p>① 単なる和訳に比べ, 訳を並べ換えることにより, ゲーム性が加わり, 英語が苦手な生徒にも積極的な授業参加が見られるようになった。 (※全ての単語の意味が分からなくても, 分かる単語や数字などのヒントをもとに並べ替えることも可能である。)</p> <p>② ストップウォッチで時間を計ることによって, 競争心が刺激されたのか, みな熱心に取り組むようになった。</p> <p>③ 並べ換えをすることで, 全英訳よりも訳にかかる時間が短縮でき, その分実際に英語を音読する作業や, 他の指導に時間を取ることが出来る。</p>		

(具体例)

[Re-arrange the order]

I saw the atomic bomb explode. It happened when I was only four years old. Nothing dreadful has happened to me since then. But I have never been happy, because Mommy was killed in the explosion.

I remember those terrible days. We lived in Urakami in Nagasaki and had air raids every day. When the sirens began to blow, Mommy helped me put on my air-raid cap. She put a knapsack on my back and took me to the air-raid shelter.

The shelter, which I always found dark and damp, was very small and full of mosquitoes. I could not play house there. But I was happy because Mommy held me tight during the terrible times. At other times, she was too busy.

- ① 私は原子爆弾が炸裂するのを見ました。
- ② しかし私は幸せではありませんでした。お母さんが爆発で死んでしまったからです。
- ③ 私がまだ4歳のときに起こりました。
- ④ それ以来恐ろしいことは私には何も起きていません。
- ⑤ 私はあの恐ろしい日々を覚えています。
- ⑥ わたし達は長崎の浦上に住んでいました。
- ⑦ お母さんはナップサックを背負わせてくれました。そして, 防空壕に連れて行ってくれました。
- ⑧ 毎日, 空襲がありました。サイレンが鳴り始めると, お母さんは私が防空頭巾をかぶるのを手伝ってくれました。
- ⑨ そこでは, ままごと遊びが出来ませんでした。
- ⑩ でも幸せでした。お母さんがあの恐ろしいときの間ずっと私をしっかり抱きしめていてくれたからです。
- ⑪ 防空壕はいつも暗くてじめじめしていて, とても小さくて蚊がいっぱいいました。
- ⑫ 他のときは, お母さんはとても, いそがしかったのです。

① -()-()-()-()-()-()-()-()-()-()-()- ⑫

(14) Quick Reading

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音読能力を伸ばす 語彙力の増加
実施科目	総合英語 A, 英語 IA, 英語理解, 英語 II の授業の一部(10分程度)を利用。
実施手順	<p>2. 準備 ストップウォッチ・・・各ペアに1個, 教師用ストップウォッチ</p> <p>3. 実施手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コーラス・リーディングを実施。発音指導を同時に行う。 ② 目標タイムを決める。各ペアにストップウォッチを1個ずつ持たせ、目標タイム内で読めるように練習する。時間をお互いに測って、練習する(その際にすでに競争するペアもいる)。 ③ 本番。ペアで競争。勝った生徒はポイントカードをGET! ④ 次に、ペア対ペアで競争を行い、勝ったペアにさらにポイントカードを配布する。
変遷	<ol style="list-style-type: none"> ① 教師のタイムを超えることができたなら、ポイントカードをあげるように変えた。 ② スラッシュを入れ、ペアの一人はまずスラッシュ内の語句を読み、もう一人は何も見ずにそれを繰り返す活動を行った。この活動を導入したところ、一人が言い終わるのを待たずに繰り返し(覚えてしまうため)、いつの間にかシャドーイングになっているペアが出てきた。この方法により、普通の教室でシャドーイングを可能にする指導法のヒントを得ることができた。
結果考察	<ol style="list-style-type: none"> ① 読む回数も多くなり、中には本文を自然と暗記している生徒もでてきた。 ② 何度も読むことで、最初は読めない単語も自然に読めるようになっていた。 ③ 生徒自身にストップウォッチを持たせることで、生徒は英語の Reading 活動と言うことを忘れて指示しなくても、何度も熱心に取り組むようになった。 ④ ペアで競争させることで、相手よりも速く読みたいと思い、更に読む回数が増えた。 ⑤ ポイントカードがもらえるので一生懸命頑張っていた。

(15) 「英作文はじめの一步」

学習到達目標	<p>(1C5)自己紹介を15分程度で50語以内の身近な英文で書くことができる。</p> <p>(1C7)and, but, becauseなどの簡単な接続詞を使って、単文をつながげながら書くことができる。</p>
実施科目	1年生の日々題として実施
実施手順	<p>1. 日々題プリントの準備(*日々題提出は平常点に入れる。)</p> <p>表面</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 語彙力向上のため基本的な単語や語句練習欄を左側に付ける。 ② 基本的な語順の例文を示し、その例文を参考にして書けるような英作文の設問をつける。(田尻悟郎先生著「英作文お助けブック」を参考にした。) <p>裏面</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 英作基本文例600の練習欄。 ② 前回の日々題の解答
変遷	<ol style="list-style-type: none"> 1 1学期の日々題では、基本文例600選の設問を出題していた。しかし、生徒はただ答えを写すだけで自ら考えて書こうとしなかった。そこで2学期からオリジナルの英作文問題を作成し例文を参考に自ら英文を作らせる形式に変更していった。 2 宅習時間を増やすために、単語、語句、英文を何度も書かせる形式を取り入れた。
結果考察	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な語順、文型への理解がまだまだ薄い、例文を参考に何とか自分で英文を作っている。 2. 少しずつ、主語の使い方や、語順が分かって来たようだ。

(16) Note-taking

<p>学習 到達 目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文を聞いて、論点・要点を聞き取ることができる。 ・ 聞きながら同時にメモを取ることができる。 ・ Constructive Speech の要点を理解し、まとめることができる。 <p>(S1) 簡素で、はっきりとした身近な内容の英文の要点をつかむことができる。</p> <p>(S3) 簡単なトピックに関する文章、話であれば、知らない単語の意味を推測しながら読むことができる。</p> <p>(S4) 各段落のトピックセンテンスをほぼ指摘することができる。</p> <p>(S36)各段落のトピックセンテンスを指摘することができる。</p> <p>(S44)Firstly, Secondly, Finally など時系列を示す副詞を使うことができる。</p> <p>(S50)ゆっくり、はっきりと話された講義、インタビュー、討議等であれば、一般的にその話題が何であるかわかる。</p> <p>(S60) 英語を聞いて、その概要について英語で簡単に文章・口頭でまとめることができる。</p> <p>(S63) 比較的抽象的な内容を含む英文の要点をメモすることができる。</p>						
<p>実施 科目</p>	<p>2学期に総合英語の時間の一部（50分中15分）を利用。</p>						
<p>実施 手順</p>	<p>1. 準備</p> <p>賛成か反対かに明確に分かれるようなディベートに適するトピックについて、ALT が賛成、反対いずれかの立場に立った内容の英文を書く。そして、テープに録音する。内容のキーワードを配列した用紙を日本人教師が作成する（サマリーペーパー）。キーワードのいくつかは、選択問題になっている。新出単語の一覧表を作る（ヴォキャブラリーリスト）。</p> <p>2. 実施手順</p> <p>①導入として、トピックについて生徒の個人的な意見とその理由を尋ねる。</p> <p>②ヴォキャブラリーリストを生徒に配布し、意味の確認と発音練習を行う。</p> <p>③テープを1～2回生徒全員へ流す。生徒は聴きながら、サマリーペーパーの空所から適語を選ぶ。</p> <p>④教師が、サマリーペーパーのキーワードを利用して口頭で要約を生徒に伝えるが、その時に空所の答えについて、生徒に解答を求めて正解を確認していく。</p> <p>3. 改良点</p> <p>①2学期中間までの実施について、以下のような指摘があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サマリーペーパーの空所から適語を選択する形式だと、選択肢自体が内容を理解するうえでヒントになってしまう。ディベートに必要な Note-taking の力を正確に見ることができない。 <p>②指摘に対して以下のように対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢ではなく空所に生徒が自分で適切な表現を入れる形に変更。 ・ トピックセンテンスをサポートする理由を的確に聴き取れるように、理由の数がいくつなのか、また Firstly, Secondly, Thirdly などのディスコースマーカーに注意を向けさせた。 						
<p>結果 考察</p>	<p>1. Pre-Test と Post-Test</p> <p>①目的・実施日：9月13日・10月4日・11月29日に実施した。</p> <p>②テストの内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回（9月13日実施）：英検のリスニング過去問の中の、第1部と第2部よりそれぞれ7問ずつピックアップした。 ・ 第2回（10月4日実施）：「友達と一緒にの旅行は一人旅より楽しめる。」というコメントに対する、263語からなる反対意見のスピーチを2回聴く。なるべくたくさん情報を箇条書きにする。箇条書きすべき項目は全部で10個。10点満点。 ・ 第3回（11月29日実施）：10月4日に実施したものと全く同じものを実施した。 <p>③実施結果</p> <table border="1" data-bbox="287 1854 1062 1971" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="text-align: center;">結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2回</td> <td>クラス平均：1.8点 得点率：18%</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>クラス平均：3.7点 得点率：37%</td> </tr> </tbody> </table> <p>④考察</p> <p>第2回と第3回の結果を比べると、得点率が第3回は第2回の2倍以上になっている。問題形式への慣れも影響しているかもしれない。得点率は上昇しているが、得点そのものは満</p>		結果	第2回	クラス平均：1.8点 得点率：18%	第3回	クラス平均：3.7点 得点率：37%
	結果						
第2回	クラス平均：1.8点 得点率：18%						
第3回	クラス平均：3.7点 得点率：37%						

<p>足できる程度とは言えない。</p> <p>2. 改良点 英検の過去問で伸びを測ることは、メモを取る力の伸びを測ることにはならないため、別の方法で測る必要があるという指摘があり、上記の方法に変えた。</p>

備考① (Note-taking 用活動のためのハンドアウト)

Topic: Traveling by planes is better than traveling by train.

Conclusion	(1. Agree 2. Disagree)
() reasons	by train, you can see → ()
	by plane, you can see → ()
	Memo
	On trains you can → ()
	On planes → ()
	Memo
	How about meals? → ()
	On trains → ()
	On planes → ()
	Memo
	() make stop-overs.
	In case of trains → ()
In case of planes → ()	
Memo	

(1 7) Reproduction Quiz

学習 到達 目標	<p>(S49) 身近なテーマであれば30秒程度話すことができる。</p> <p>(S50) ゆっくり、はっきりと話されれば、一般的にその話題が何であるかわかる。</p> <p>(S51) 身近なテーマについての討議で相手の考えを理解し、自分の立場からの意見を英語で30秒程度述べることができる。</p> <p>(S52) 互いに理解しあうために、相手の言葉を利用しながら、相手の言いたいことをさらに明確にするように要求できる。</p> <p>(S58) 日常会話・あるいは特定のテーマを討議するのに必要十分な語彙を覚え、使うことができる。</p>
実施 科目	<p>1. 1学期後半から3学期終了まで。</p> <p>2. 英語表現3単位中の1単位の時間の一部を利用。</p>
実施 手順	<p>3. 準備</p> <p>賛成か反対かに明確に分かれるようなディベートに適するトピックについて、日本人教師が賛成、反対いずれかの立場に立った内容の英文を書く。ALTが、英文をチェックし、テープに録音する。内容のキーワードを配列した要旨を日本人教師が作成する (Summary paper)。キーワードのいくつかは、選択問題になっている。新出単語の一覧表を作る (Vocabulary List)。原稿の内容とその要約を書いた用紙を作る (Manuscript)。Reproduction Quiz は全部で12回実施。</p>

4. 実施手順

- ① 導入として、トピックについて生徒の個人的な意見とその理由を尋ねる。
- ② **Vocabulary List** を生徒に配布し、意味の確認と発音練習を行う。
- ③ テープを数回流す。生徒は聴きながら、**Summary paper** の空所から適語を選ぶ。
- ④ 教師が、**Summary paper** のキーワードを利用して口頭で要約を生徒に伝えるが、その時に空所の答えについて、生徒に解答を求めて、正解を確認していく。
- ⑤ 生徒はペアになり、**Summary paper** を利用してお互いに口頭で内容について述べる。
- ⑥ **Manuscript** を配布し、生徒に内容を確認させる。
- ⑦ **Manuscript** に書いてある、サマリーを教師の後につけて、生徒は音読する。

5. 改良点

2学期までの実施について、以下の2点の指摘があった。①**Summary paper** の空所から適語を選択する形式だと、選択肢自体が内容を理解するうえでヒントになってしまう。ディベートに必要な **Note-taking** の力を伸ばしたり、**Note-taking** の力を正確にみることができない、②原稿の内容が **400** 語近くあり、語彙も生徒のレベルには難しい。

そのため、指摘に対して以下のように対応した。①選択形式ではなく空所に生徒が自分で適切な表現を入れる形に変更。②**400** 語から **200** 語程度の内容に変更。

また、他の時間に試しにやってみたディベートの練習から、**Cross-exam** がうまくできないことがわかったので、3学期から、**Reproduction Quiz** の練習が終わった後に、話された内容に対しての質問、反論を各グループに考えさせ、発表させることを始めた。その質問、反論に対しては、教師ないしは、他のグループの生徒が応答することとした。

結果 考察

1. Pre-Test と Post-Test

① 目的・実施日

Note-taking 力の伸びを見るために、6月28日、10月18日、12月20日に実施した。

② テストの内容

(1) 第1回 (6月28日実施)

[大問1] 「18歳以上の人に選挙権を与えるべきである」という101語からなるスピーチと、「与えられるべきではない」という82語からなるスピーチを2回聴く。その内容の要旨をまとめた表の空所から適語を選び、その記号で答える。空所は全部で12個。12点満点。

(2) 第2回 (10月18日実施)

[大問1] 第1回と同じ。

[大問2] 「テレビのせいで友達同士、家族同士のコミュニケーションが損なわれてしまっている」というコメントに対する、313語からなる反対意見のスピーチを2回聴く。スピーチの要旨をまとめた英文の空所から適語を選び、その記号で答える。空所は全部で14点満点。

[大問3] 「最もよい旅の仕方は、ツアーガイドに引率されて団体で旅行することである。」というコメントに対する、438語からなる賛成意見のスピーチを2回聴く。賛成の理由をなるべくたくさん日本語で箇条書きにする。箇条書きの項目は全部で18個。18点満点。

(3) 第3回 (12月20日実施)

[大問1] 第1回と同じ。 [大問2] 第2回と同じ。 [大問3] 第2回と同じ。

③ 実施結果

	大問1		大問2		大問3	
	平均	得点率	平均	得点率	平均	得点率
第1回	8.5点	71%				
第2回	8.5点	71%	9.1点	65%	4.4点	24%
第3回	8.3点	69%	10.2点	73%	7.3点	41%

④ 考察

大問 1 に関しては、3 回を通してほとんど変化がなかった。むしろ 3 回目に得点率が 2% 下がってしまった。大問 1 に関しては、**Reproduction Quiz** の効果はあまりみられない。

大問 2 に関しては、2 回目より 3 回目が得点率において 8% 上がった。大問 1 よりも大問 2 の方が内容的に難しかったこともあり、得点率に顕著な差がみられたのかもしれない。ただし、**Reproduction Quiz** の効果で得点率がアップしたとは断定できず。他の要因も考えられる。

大問 3 に関しては、得点率が 3 回目は 2 回目の約 2 倍になっている。問題形式への慣れも影響しているのかもしれない。得点率は上昇しているが、得点率そのものは満足できるほどではない。箇条書きにする項目が全部で 18 個になっているが、項目を細分化しすぎたことも得点率の低さに関連があるのかもしれない。

また、3 学期から実施している **Cross-examination** の効果については、実施期間も短く、成果を判断する方法を現在検討中である。

(18) Composition related with Debate

学習到達目標	(S44)Firstly, secondly,などの副詞を使って文章を書くことができる。 (S46)身近な話題について自分の考えや意見を述べた 80 語程度の英文が 20 分以内で書ける。 (S47)Global error のない英文を書くことができる。
実施期間 科目	1. 2 学期から 3 学期。 2. 2. 英語表現 3 単位中の 1 単位の時間の一部を利用。
実施手順	1. 実施手順 ①ミニ・ディベートでとりあげたトピックについての自分の考えを最後に 80 語程度で書くことを、生徒にあらかじめ指示しておく。 ②ミニ・ディベート後、用紙を配布して 20 分程度で授業中に書かせる。 ③生徒の英作文にコメントをつけて返却する。 ④全生徒の英作文を訂正し、ALT に添削してもらう。 ⑤添削したものを全生の英作文をまとめて印刷したプリントを、生徒に配布する。 ⑥生徒は、各自、そのプリントを参考に訂正された英文を実際に自分で書いてみる。 2. 改良点 生徒が書いた英作文を評価する方法の一つとして、インターネットの Eva Text Analysis を利用するとよいという指摘を受け、3 学期に試験的に Eva Text Analysis を使って評価し、その結果を生徒に還元してみた。
結果考察	1. 実施結果 ① 第 1 回英作文 ・実施時期 10 月 ・タイトル : Will Cool Biz take root in Japanese fashion? ・英作文の平均語数 : 59 語 ・評価 : Length(1~5), Content(1~5), Grammar(1~5)の 3 項目の平均を取り、Total(1~5)で総合評価した。Content, Grammar の評価については、客観的に判断するのが難しかった。Total の学級平均値は、2.9 点。 ・生徒へフィードバック: 評価点数とコメントを記入して返却。訂正した英文は示さなかった。 ②第 2 回英作文 ・実施時期 11 月 ・タイトル : Should high school students wear school uniforms? ・英作文の平均語数 : 54 語 ・評価 : Eva Text Analysis を使用。Readability Grades の Kincaid 値の平均が 3, 7 点。ちなみに、ニューズウィークの 93 語からなる英文の Kincaid 値は、18, 9 点。 ・生徒へフィードバック:

Eva Text Analysis の個人結果を配布。訂正した英作文の一覧を配布。
<p>②第3回英作文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 1 2 月 ・タイトル : Should foreign students be allowed to join sport club in Japanese senior high schools? ・英作文の平均語数 : 59 語 ・評価 : Eva Text Analysis を使用。Readability Grades の Kincaid 値の平均が、3.8 点。 ・生徒へフィードバック: Eva Text Analysis の個人結果を配布。訂正した英作文の一覧を配布。 <p>②第4回英作文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施時期 : 2 月実施予定 ・タイトル : Should all the senior high school graduates go to university? <p>2. 反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英作文にコメントを付け加えることで、英作文を書く動機を喚起しようとしたが、毎回コメントを全員分書いて返却するのは大変である。→一行のコメントでも十分か。 ・生徒の英作文に直接赤ペンで文法的な訂正を書き込んでも、生徒のやる気を喚起できるか疑わしかったので、全員分を訂正して印刷したプリントを配布して、参照するようにした。生徒が訂正プリントを見ながら、再度書き直したからと言って、それが直接英作文力の向上につながるかは、不明。また、必ずしも毎回実施はできなかった。 ・数回英作文を実施することによって、ある程度の量 (50 語～80 語) の英文を書ける生徒は増えたが、文法的な誤りや内容については、なかなか進歩が見られない。 ・Eva Text Analysis を使って生徒の英作文を評価してみたが、評価基準が多く、どれを参照にしてみたらよいかわからなかった。また、各規準の内容についてよく理解しないまま実施してしまった。生徒の英作文を一人一人コンピューターに教師が打ち込むのは大変なので、生徒が直接コンピューターに打ち込んで Eva Text Analysis を使えるように指導したほうが近道かもしれない。

(19) なりきりロールプレイ

学習到達目標	(S79)身近なテーマに関する討議で、自分の意見を英語で効果的に主張することができる。
実施科目	異文化理解
実施手順	生徒 A・B のペアを作る。教員が A, B の役割を提示し、ペアで 2 分間それぞれの立場で会話をする。パートナーと役柄を替え、何度か繰り返す。2 分間できるだけ沈黙がないようにそれぞれの主張を続け、相手を説得するように指示する。2 分間という短い時間設定のため、必死に取り組みやすい。
結果考察	生徒たちに会話を行うべき状況を与えた点が良かった。積極的でない男女のペアもあったが、ペアを随時入れ替えることによって、全体的に活動は行われた。
役割の例	①A: a student who sleeps during English lesson. / B: a strict English teacher ②A: a husband who wants to take a nap on Sunday. / B: a wife who wants to go shopping with her husband. ③A: a boy who got late for 30 minutes. / B: a girl waiting for her boyfriend

(20) ホットポテト

学習到達目標	(S85)話すとき、沈黙の時間を抑えながら自然な会話を続けることができる。 (S81)互いに理解しあうために、相手の言いたいことをさらに明確にするように要求できる。
実施科目	異文化理解

実施手順	生徒A・Bのペアを作る。生徒Aは与えられた質問を述べて会話を進める。Aが質問をし、Bは答える形式である。1組に1つ消しゴムを用意し、それをすごく熱いジャガイモと仮定する。話をする側が「ホットポテト」を持つこととし、熱いためすぐに相手に渡さなければならない！ 会話にテンポが出てくるようになった。
結果考察	生徒たちは非常に意欲が高く積極的だった。消しゴムを早く相手に渡さなければならないため、早く何か話す練習になった。相手の言ったことに対する反応を高めるためにも良い活動であった。
会話文例	A: <u>What did you do last night?</u> ←この文だけ与える。 B: I watched TV. A: What TV did you watch? B: I watched "Smop Smop". (このあと、Aはどんどん質問を続ける)

(21) モデルディベートの再生

学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なメモを取ることができる。 メモを見ながら文の形で発言できる。
実施科目	異文化理解
実施手順	JTEとALTが英語でディベートを行い、生徒は聞きながらメモをとる。聞き終わった後で生徒はペアでJTE派、ALT派に別れ、メモをもとにディベートを再生する。自分の意見を付け加えても良いとする。話の大まかな内容を聞き取ってメモを取り、単語レベルのメモから文章を作って発言をする練習となった。

(22) サイレントディベート

学習到達目標	<p>(S79)身近なテーマに関する討議で、相手の言っていることを理解し、自分の意見を英語で効果的に主張することができる。</p> <p>(S80)具体例を挙げ、理論的かつ説得力のある論拠の提示や論証ができる。</p> <p>(S84)場面にあった決まり文句を用いて、会話を続けることができる。</p> <p>(S85)話すとき、長くても5秒以内の沈黙に抑えながら会話を続けることができる。</p>
実施科目	異文化理解
実施手順	<p>A4の用紙を縦置きにし、中央に縦線を入れ、左側に Affirmative、右側に Negative と書き入れる。一つのテーマについてペアで賛成派、反対派を決め、声に出して意見を言う代わりに自分の意見を紙に書く。会話の流れを矢印で記入するようにし、いくつ矢印が書けたか(何回会話のやり取りがあったか) ペアで競う。その際、以下のルールを定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 絶対声を出さない。 自分の意見を書いたら紙を相手に渡し、相手が書いている間は次の意見を考えておく。 具体例や証拠を用いて理由付けをできるだけ効果的にする。 分からない単語が出てきた場合は辞書を用い、相手と一緒に見ても良い。
結果考察	<p>テーマを与えて、「さあ、意見を言いましょ」と言っても、生徒たちはなかなか思ったことを表現しない。そこで最初の段階でこのサイレントディベートを導入した。話すことが許されないの、ペアとの気まずさを解消するためにはとにかく何か意見を書かなければならない。かなり熱心に取り組んでいた。友達同士で日頃している手紙のやりとりの感覚で楽しめるようである。声を出せず、書くことが唯一のコミュニケーションの手段になるため、また相手が待っているという緊張感から、早く自分の意見を出そうという気持ちになる。</p> <p>この段階で必要としたのは、良い意見を出すことではなく、とにかくテーマに関する意見を何でも出すことである。辞書を使用したり、イラストや日本語の単語をこっそり使用したりしているペアもいたが、ある程度生徒の能力に応じて黙認した。授業中などに隠れて手紙のやり取りをする感覚で、一味変わったコミュニケーションを楽しんでいたようであった。ただペアがあまり仲が良くない場合は積極的な活動とはならなかった。この活動の成否には、英語の能力ではなく、ペアとの人間関係が楽しめるかどうかという点が大きく作用した。</p>

(23) ピンポンディベート

学習到達目標	(S79)身近なテーマに関する討議で、相手の言っていることを理解し、自分の意見を英語で効果的に主張することができる。 (S80)具体例を挙げ、理論的かつ説得力のある論拠の提示や論証ができる。 (S84)場面にあった決まり文句を用いて、会話を続けることができる。 (S85)話すとき、長くても5秒以内の沈黙に抑えながら会話を続けることができる。 (S86)日常会話・あるいは特定のテーマを討議するのに十分な語彙を覚え、使うことができる。
実施科目	異文化理解
実施手順	① 12人ほどの生徒を2グループに分け、それぞれ縦2列に並べる。 ② トピックに関して一方の列を賛成側(Affirmative)、もう一方を反対側(Negative)とする。 ③ 生徒Aが生徒Bに"I think that __, because __."と賛成意見を述べる。 ④ 生徒Bは生徒Cに"A said that __, but I think that __."と反対意見を述べる。 ⑤ 生徒Cは生徒Dに"B said that __, but I think that __."と賛成意見を述べる。 ⑥ 同様に続けていき、反対側の最後の生徒が最初の生徒Aに反対意見を述べ、活動を終える。
結果考察	ディベートでは必ず相手の意見を聞き入れた上で自分の意見を言う必要がある。この活動ではその姿勢と表現の定着を図った。12人と少し多めの人数で行うことで、ある程度大きな声ではっきりと発言することが要求された(他の生徒の発言はすべてメモさせた)。つまり、他の意見をしっかりと受け入れてから自分の意見を言うことと、できるだけ多くの意見を出すことを目標においた活動であった。 また前段階のサイレントディベートでは、声を出していないため、ここで12人という少し多めの人数の前で発言することは全員の前で発表する練習にもつながると考えた。 しかしながら実際は、思い思いのアイデアをどんどん出していくだけの活動で、メモを取らせたがそのあとにつながる活動があるわけではなく、面白みにかけた。また同じ教室で12人グループを3つ作ったので、他のグループに声がかっぶってやりにくく、思い切り声を出させることが出来なかったため、この活動については改良の必要を感じた。

(24) マイクロディベート

学習目標	(S79)身近なテーマに関する討議で、相手の言っていることを理解し、自分の意見を英語で効果的に主張することができる。 (S80)具体例を挙げ、理論的かつ説得力のある論拠の提示や論証ができる。 (S84)場面にあった決まり文句を用いて、会話を続けることができる。 (S85)話すとき、長くても5秒以内の沈黙に抑えながら会話を続けることができる。 (S86)日常会話・あるいは特定のテーマを討議するのに十分な語彙を覚え、使うことができる。
実施科目	異文化理解
実施手順	3人組でそれぞれ賛成派、反対派、審判の役になり、同じテーマで12分くらいの短いディベートを繰り返す活動である。生徒全員をA,B,Cの3つに分け、A,B,Cそれぞれ一人ずつの3人グループを作る。1時間の授業ですべての生徒がAffirmativeとNegativeとJudgeの3役こなすように役割を順次割り当てる。様々な意見が出てくるように、途中から1試合ごとに全く新しいメンバーになるようにグループを設定するようにした。

結果考察	<p>本格的なグループ、時間配分のディベートを行う前に準備、練習段階として何が必要かと考えたときに、とにかく何度も練習をしてみることに、とくにその場で応答する Cross-Exam の部分を鍛えることが必要と考え、実施した。</p> <p>また、審判を経験し、1 試合ごとにどの意見が説得力のあるものであったかを自分たちで振り返ることで、自然に論理性を追求する効果があった。さらに、同じテーマで何度も対戦を繰り返すことで、そのテーマに関する単語や文章の言い回しの定着が図れた。</p> <p>さらに、メンバーを替えて何度も同じテーマでディベートするため、前のグループで他の人が発言したアイデアをまねてもかまわないこととした。そのため自然とクラス全体の中で意見交換が行われることになる。また、他の意見を真似ることが許されていることで、生徒の中に活動のしやすさを感じさせる。同時に、意見を英語で再生する際に、自分なりの英語表現を使用しなければならないため、発話の良い練習となった。</p> <p>この後本格的なディベートに向けてグループ編成をした後で、どのようなアイデアが効果的であるか、判断しやすく、今後もぜひ入れていきたい活動の一つとなった。</p>
------	---

(25) サーキットスピーチ (相手のスピーチを聞き、自分の言葉を使って要約する活動)

学習到達目標	<p>(S77)聞いた要点のメモを利用して、その概要を発表できる。</p> <p>(S78)身近なテーマについての1分間スピーチができる。</p> <p>(S81)互いに理解しあうために、相手の言葉を利用しながら、相手の言いたいことをさらに明確にするように要求できる。</p> <p>(S84)場面にあった決まり文句を用いて、会話を続けることができる。</p>
実施科目	異文化理解
実施手順	<p>① あるテーマについてスピーチの原稿を書かせる。</p> <p>② 3人のグループを編成し、以下のような活動をする。</p> <p>(a) Aが用意したスピーチを、グループ内で発表する。</p> <p>(b) BがそのAのスピーチに対する質問をする。</p> <p>(c) CはAのスピーチを書き、要旨をまとめ発表する。</p>
結果考察	<p>主に Constructive Speech で相手が言ったことを確かめたり、詳しく聞きなおしたりする訓練と、メモを取りながら要旨をまとめる練習に適切であると考えて導入した。前者は Cross-Exam、後者は Conclusion Speech の練習になる。</p> <p>ランダムなペアで実施したが、英語力に個人差があるため、最初のスピーチに差が出た。そのため、ペアによって活動の差が出た。特に下位の生徒にとってはかなり高度な活動となっていた。Clarification や質問の仕方について、もっとたくさんの例文を用意したり、モデルを教員側で示したりするなど、よりきめ細かな事前指導が必要と感じられた。また、テーマについてもどのようなものが適切かもう少し考察の必要を感じた。</p>